春満開！
13号
2001 Apr.

NOPPO FUN
Monthly News

発行所
Noppo
編集・監修
のっぽ公報班

自然保護の歴史

自然保護。現在では生態系の側から自然を見て保護、人間との共生をしていますが、最初からそうだった訳ではありません。“自然環境を守る”という分野では、圧倒的に世界をリードしているアメリカの国立公園の歴史を通して、自然保護の歴史などを紹介しましょう。

世界で最初の国立公園

１８７２年、世界最初の国立公園「イエローストーン国立公園」がアメリカワイオミング州北西部につくられた。南北戦争終戦後わずか７年後、日本では明治維新の真っ最中。開拓や開発が自然に悪影響を及ぼすという意識がほとんどゼロだった頃の話だ。世界的に広まった環境保護運動、ナショナル・トラストがイギリスでスタートしたのが１８９５年だから、その２０年も前に、アメリカでは自然環境を保護することの必要性が議論されていたわけだ。

しかし、現在のようなシステムとしての国立公園が整備されるのには１００年近くの歳月を必要としました。

１８７２年間は、殺を石といった。軍理泉のりでした。況は間は管生動物を欠ったり状年公園を野間帰いどる３０国立国ました。

１９１６年、現在と初のに基本立公園のアメリカ国立「アメリカ国実施法」が制定自由たっ国る園されました。

しかし、当時の自然保護の考え方は、人間に危害を及ぼす動物を殺して、見て楽しい・かわいい動物を守ることでした。これは人間の都合のいいように動物を殺したりしているわけですから、生態系も崩れて特定の動物たちの数が激減した。オオカミは１９５３年ぐらいには絶滅してしまいました。この考え方は１９７０年ぐらいまで続いた。

ベトナム戦争を境に政府任せの自然保護から市民が主導権を握り政府を管理しようと考えるようになり、生態系の側から自然を見るようになった。それまで危険視されていた動物、イタチもクマもピューマもオオカミも生態系にとっては大切なものだと考えるようになり、特殊な例外を除いては動物の数を管理しなくなった。そして現在の自然保護の形になった。

・あるがままの自然環境や歴史遺産の保護、保全すること
・誰もが平等に利用できる施設を建設し、維持管理すること
・利用者が自然や歴史への理解を深める環境を提供すること

人間の責任

日本でクマが人間を襲うと一方的にクマがわるいということになりますよね。アメリカの国立公園内では違うようです。クマか人間、どちらに責任があるかによって危害を加えたクマを捕獲するかどうか決める。あくまでも人間と動物は公平に裁かれる。

ほとんどのクマは人間は餌ではないことや、人間が持っている食べ物を食べてはいけないことを分かっている。にもかかわらず、夜中にテントに入ったりすればクマの責任になって捕獲される。

アメリカの自然保護の考えには、自然は必ずしも人間にとって安全なものではなく、自然が人間に害を及ぼすこともあると納得しています。その上で、安全管理は自分自身で行うのがアメリカでは普通のようです。

ヨセミテの山火事

ヨセミテに行ったことがある人はご存知かと思いますが、山火事が起こらないと人工的に火をつけることもあるそうです。国立公園の違いにもよりますが、ヨセミテでは１年～２年周期で燃えたほうがいい生態系だからその期間に火事がないと火をつけるようです。イエローストーン国立公園では生態系が３０年から３００年くらいの周期で燃えたほうがいい生態系なので自然の山火事に任せているそうです。

編集後記

やっぱアメリカはすごい！子供への自然の教育も環境のための特別な授業があるわけではなく、すべての授業で自然についての考え方を教えるそうです。我々も自然への知識を深めて、子供には正確な自然教育をしていきたいですね。

PRIVATE